

休憩 ◆ ポスター発表

NPO法人手話教師センター

森永慶子・黒田栄光・袴田容代・吉川あゆみ・今井彰人

多義語〈省く／除く〉の使い分けに関する調査



手話〈省く／除く〉には、利き手を横に動かす場合と下に動かす場合の2通りの表現が見られる。横に動かすく省く／除く〉は主に具体的な物や人に関する時に使われ、下に動かすく省く／除く〉は主に目に見えない事柄に使われることが多いと考えられるが、実際のところ、この二つの表現は何らかの使い分けがなされているのか、その場合、どのような意味の違いがあるのかについて調べた。調査は、手話が第一言語であるろう者を対象に、手話動画をはめ込んだWebを用いた質問調査を実施した。15文中で、各文のく省く／除く〉の利き手の動きは横か下かを尋ね、その結果をまとめた。

午後の部 ◆ 登壇発表

「高等教育機関における手話通訳のニーズと活用に関するヒアリング調査を通して」

吉川 あゆみ(関東聴覚障害学生サポートセンター)
白澤 麻弓(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター)
江原 こう平(国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科)

大学・大学院等の高等教育機関における情報保障は、ノートテイクやパソコンノートテイク等の文字通訳が拡がりを見せているが、手話通訳のニーズも根強いものがある。今回、高等教育と手話通訳の関連を明らかにするため、実際に大学で聴覚障害学生の支援を担当している聴覚障害のある教職員を対象にヒアリング調査を実施し、手話通訳のニーズや特質、課題を探った。その結果、対象者全員が、日本語の読み書きに不自由しないにもかかわらず手話通訳を必要としており、手話通訳をつけることによって文字通訳とは異なる有益な情報を得ていること、手話通訳と共働し専門職として活動していることが示された。



「授業実践報告
～ろう児が楽しむオノマトペの世界～」

坂森 萌笑(明晴学園小学部教諭)



日本手話と書記日本語のバイリンガルろう教育を行う明晴学園では、「手話」と「日本語」という独自の教科を設けている。日本語の授業では、国語の教科書に掲載されている詩や物語の理解を深めるために、日本手話と書記日本語の両方を使いながら学んでいる。今回は、「ざぶん」「むしゃむしゃ、もぐもぐ」などのオノマトペを取り上げた授業実践を紹介する。ろう児には理解しにくいと考えられがちなオノマトペであるが、日本手話のCLやNM表現、RSを用いて、情景を思い浮かべ、語の持つイメージをとらえることができる。その過程を報告する。

「日本手話の授業の試験について
～現状や検証から試験問題作成の試み～」

野口 岳史
(国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科)

授業の成績評価の基準に、出席やレポートなどあるが、本稿では試験(小テストも含む)に着目し、日本手話の授業に試験を取り入れる方法を検討する。まず、NPO法人手話教師センター会員を対象にインタビュー調査を行い、「日本手話」の授業の評価方法を広く収集し、それぞれの評価方法の効果や問題点を整理する。ここで得た知見から、筆者の授業に試験を取り入れた試みを分析し、メリットとデメリット、改善点について報告する。これらをまとめ、今後の日本手話の授業評価法について考察を行う。



午後の部 ◆ 活動報告

「ろう通訳者と聴通訳者の協働による通訳について」

NPO法人手話教師センター

【主管】「第21回 日本手話教育研究大会」実行委員会

〈Mail〉jslt.rm@gmail.com 〈Facebook〉https://www.facebook.com/jslt.rm2018/